



平成16年3月19日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所 第20回定期検査の延長について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、電気出力110万キロワット）は、2月1日から約2ヶ月間の予定で第20回定期検査を実施しておりますが、炉内構造物の点検工事において、高圧炉心スプレイ系スパージャの注水ノズル部品（デフレクタ1個*）の一部が欠落しているのが確認されました。

（2月25日茨城県政記者クラブにて報告済）

このため、当該部品について、原子炉等で探索を行っております。また、欠落した原因の調査、機器に与える影響評価を行うと共に、残りのデフレクタについても、健全性の確認を行うこととし、定期検査作業に更に1ヶ月程度を要する見込みとなりました。これにより、定期検査期間を延長することとなりましたのでお知らせします。

*：高圧炉心スプレイ系ノズルは、130個あり、そのうち65個にデフレクタが付けられている。デフレクタは、ノズルの内部に取り付けてあり、ノズルからの注水に対し邪魔板の役割を有している。

以上

添付資料 東海第二発電所 スプレイノズルデフレクタ概略図

東海第二発電所 スプレイノズルデフレクタ概略図

